

大学ポートレート運営会議（第4回） 議事録

1. 日 時 平成28年3月11日（金）9：30～12：00

2. 場 所 学術総合センタービル1階 特別会議室101～103

3. 出席者

（委員）

麻生委員、岡本委員、相良委員、佐藤委員、鈴木委員、田中委員、原田委員、日高委員、
水戸委員、山極委員、
奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）

（専門委員）

二宮専門委員、
小林専門委員

（オブザーバー）

文部科学省：伊藤高等教育政策室長

（事務局：大学評価・学位授与機構）

武市大学ポートレートセンター長、井田教授、鎌塚評価事業部長、
小山田大学ポートレートセンター事務室長

（事務局：日本私立学校振興・共済事業団）

谷地私学経営情報センター長

4. 議 題

- （1）国際発信に関する専門委員会の調査審議の状況について
- （2）今後の大学ポートレートの改良に向けた取組について
- （3）その他

【鈴木議長】

ただいまから、大学ポートレート運営会議（第4回）を開催いたします。本日の会議は、大学ポートレート運営会議決定により公開とさせていただきます。よろしく申し上げます。

【鈴木議長】

資料1「大学ポートレート運営会議（第3回）議事録（案）」については、事前に各委員にご確認いただいておりますので、これにて確定とさせていただきますが、よろしゅうございますか。

ありがとうございました。

続きまして、国際発信に関する専門委員会の調査審議の状況について、国際発信に関する専門委員会につきましては、大学ポートレート運営会議（第2回）にて設置をご了承いただき、大学ポートレートによる教育情報の国際発信についての調査審議を行っていただきました。

本日は、調査審議の状況について、二宮専門委員よりご報告いただくこととしております。

【二宮専門委員】

専門委員会の主査の二宮でございます。

国際発信に関する専門委員会での国際発信項目の検討状況等について、ご報告させていただきます。

国際発信に関する専門委員会では、大学ポートレート運営会議との役割分担を確認しながら、国際的な教育研究活動や学生交流等に特に力を入れようとする大学等が、より充実した情報発信を行うに当たり、期待される発信項目、内容及び範囲などについて検討を行ってまいりました。

平成27年8月から平成28年2月まで、計4回の会議を開催いたしました。検討した結果、資料2-1「大学ポートレートによる国際発信項目について（報告）」と、資料2-1の別添資料「国際的な発信が望まれる教育情報（案）」、この2つをもって本委員会には報告させていただくことにいたしました。

資料2-1は、4つの項目からなっておりまして、1. 国際発信項目検討にあたっての基本的考え方、2. 大学ポートレートによる国際発信項目（案）、3. 国際発信の方法・体制について、4. 国際発信を行う上での留意事項を用意いたしました。

それでは、1の国際発信項目検討にあたっての基本的な考え方について、ご報告いたします。

1-1が国際発信の意義・目的でございます。まず1点目として、大学は、様々な教育研究上あるいは経営戦略上それぞれ重視される機能も多様であり、国際発信の必要性や発信しようとする情報の内容も大学によって異なります。各大学が工夫を凝らし、それぞれの大学の情報を積極的に国際発信することは、各大学の国際的な評価の向上、優秀な学生・教員の獲得、外国の大学との組織的・継続的な教育連携の加速などにも寄与するもので、大変意義のあるものである、といえます。

2点目として、大学ポートレートは、各大学の主体的な情報発信を前提としながら、国公私立大学の教育に関する基本的な情報の共通枠組みとして、ウェブサイトアクセスされる人たちが必要な情報に到達できるようにしようとするものです。

これにより、日本の大学教育全体に対する国際的な信頼性の確保、国際的な評判、評価の向上、さらには、質保証の促進、国際的な質保証に役に立つということが目的であり意義であるところとご理解いただいたところでございます。

1-2ですが、国際発信の対象としては、まずは外国人留学生の受け入れという国際戦略上という観点からふさわしい項目に焦点を絞って検討を進めようということに決めたところと中途経過でご報告したものと理解しております。

検討の進め方ですが、日本の大学に留学を希望する外国人留学生に対して大学が発信することが望ましい項目を大学ポートレートによる発信に限定することなく、網羅的に検討するという立場をとりました。検討に当たっては、諸外国における留学生向けの情報発信の状況、日本学生支援機構、民間の情報サイト、国内における外国人留学生向けの情報発信の状況、G30の採択校のコンソーシアムによる共同ウェブサイトによる情報発信、中央教育審議会大学分科会で示された「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」を参考にしております。

2. 大学ポートレートによる国際発信項目（案）については、別添の資料で、後ほど報告させていただきます。

3. 国際発信の方法・体制について。国際発信が望ましい項目のどの項目をどのような方法で発信するかという点につきましては、大学ポートレート運営会議で審議されることであると理解しておりますので、専門委員会としては、この点については整理はしていません。

4. 国際発信を行う上での留意事項ですが、国際発信に関する専門委員会の議論で、委員から出された留意事項とでも言うべきポイントがございましたので、列挙させていただきます。

いております。

1つ目は、公表画面は簡潔明瞭なものが望ましい。

2つ目は、利便性に配慮し、検索機能を充実することが望ましい。

3つ目は、公表後も、各大学においてより充実した情報発信を進めることが望ましい。

4つ目が、情報の充実。大学の負担軽減の観点から、大学のウェブサイトとのリンクは当然考えられることですが、安易にリンクを載せてしまうと、かえって利便性を損なうという意見もありましたので、その点も各大学にはご理解いただくように努力しなくてはならないという意味でございます。

また、英語での表示が望まれておりますが、教育機関にふさわしい、正確で国際通用性のある英語で発信する必要があります。大学ポートレート運営会議等におかれましては、翻訳例を示すということでもって、各大学の国際発信を支援していただく、そして、全体的な統一性が保たれ、また、正確性も担保できます。そういったことについてご配慮をいただきたいと思っております。

それから、学位取得を目的とするプログラムと学位が取得できないプログラムがございますが、それについては明確にしておいたらどうか。

最後に、外国人留学生の視点から、より適切な情報が発信されるための工夫をぜひお願いしたいということでございます。

全体的な報告は以上です。

続きまして、別添資料「発信が望まれる教育情報（案）」をご覧くださいければと思います。

発信の程度の項目は、◎と○と◆がございます。◎は、大学ポートレートで共通的に発信することが望まれる基本的な情報です。必須項目は設けてありません。共通的に発信することが望まれるという形で、各大学の裁量ということにしてあります。

○は、大学ポートレートで積極的に発信しようとする大学が選択的に発信することが望まれる情報です。これは国際展開とか国際化等々に積極的に取り組みたいと思われる大学にあっては、この中からより重視されるものを選んでいただいて、発信していただきたいという性質の情報です。

◆は、これは各大学が、大学ポートレート上に限らず、必要に応じて自発的な形で発信していただきたい情報です。

また、大学ポートレートの公表項目の欄に○が付してございます。現在の大学ポートレ

ートでは公表項目にはなっていないものが、国際発信の中では◎になっているものもありますので、その点も見ていただければと思っております。

国内では問題はないと思うことも、海外にその情報を持ち出すときにはどうだろうかということもあります。大学ポートレートで○が付いているところが、逆に、今度は国際発信のところでは○を付けないといったような項目もございます。例えば、教員の年齢別云々といったところについては、あまり世界では年齢に固執する必要はないのではないか、収容定員という概念は、必ずしも必要なものではないのではないかといったことを議論したわけがございます。

1 ページは大学全体の発信で、発信の程度は◎が非常に多くなっております。国際的には、例えば9番、授業における多言語化の情報というのは積極的に発信していただいたらいいのではないかとされています。10番も同様で、外国人留学生にとっては、意味のある重要な情報ではないかということです。12番も、外国人留学生が何名いるかというのは、留学しようと思うときには参考になる情報であろうとされています。17番の卒業率については、留学生と日本人学生、どうするかは大学によって考えは違うのではないかとということで、○になっています。

それから、周辺地図などは、あえて載せる必要もないのではないかとしています。

24番の学事暦等は、大学ポートレートでもございませぬけれども、必要に応じて発信していただいたらいいのではないかとしています。

2 ページをご覧ください。一番右をご覧くださいますと、大学ポートレートでは特に取り扱っていない項目ですが、国際発信という観点から、国際化への対応状況及び国際交流について情報として発信していただけたらとしています。留学生に固有のプログラム、サービス、あるいは、36番は、ダブル・ディグリーなどのような形で、これは日本人学生にとっても重要なことですが、留学生にとっても魅力あるプログラムの一つになります。37番と38番の短期プログラムは受入れと派遣の場合がございます。

39番が、研究留学生という形での受入れ方をきちんと説明していただくことも大切ではないかといったようなことがございます。

それから、同窓会情報は、ぜひ発信していただければとしています。日本への留学を考えると、それぞれの国の同窓会に連絡すれば有用な情報源、アドバイス源になるだろうということで、◎を付してあります。

3 ページをご覧ください。49番、危機管理情報ということで挙げております。東日本大

震災を機に、海外の人の日本を見る目が変わってきました。それを教訓にしながら、仮にそういう危機があっても、大学としてもきちんと安全の管理体制はできているといったことを発信して、安心を与えていただくという意味で大切なことではないかなと。

52 番も、留学生にとっては、英語等によるカウンセリングも必要ということで、お願いしたい項目になっております。

5 ページをご覧ください。学部・研究科単位で発信する情報についてです。大学ポートレートと対応しながら並んでいますが、◎がございません。大学全体としては◎で、共通項目として発信をぜひお願いしたい項目ですが、共通項目にはしないで、選択的に発信していく方向で考えていただけたらということでございます。

特に、67 番は学位プログラムですので、学位については、研究科・学部、学士課程それぞれが明確に説明していただくほうがいいのではないかと考えております。

6 ページをご覧ください。大学全体もですけれども、研究科で特色ある対応がありますので、82 番などはぜひ積極的に発信いただきたいです。81 番の学事暦等も、たとえば、9 月入学をされるとか、研究科でされる場合が多いので、積極的に発信していただければありがたいと思います。

7 ページ、学生のこと、109 番に授業料がありますけれども、お金や経済的な支援については、研究科ごとに違うということを前提にしながら、大学全体でも扱っていただければありがたいです。経済的な支援についても、必要があれば発信していただくという形で結論を得たところでございます。

8 ページ、進路等については、必要に応じて発信していただくということでもよろしいのではないかと整理しています。否定的な情報は発信しなくていいという意味ではなくて、日本に来てからわかればいいものもたくさんありますので。

最後に、発信項目の英語表記と日本語表記、英語表記はクイーンズイングリッシュとスポークン・アメリカンイングリッシュでは少し表現が違うといったようなこともありましたので、イギリス出身であるアリソン・ビール委員、アメリカでの経歴が非常に長い肥後委員にチェックしていただいて、Academic Staff と Faculty という使い方は、スラッシュを付けて、両方の使い方を併記しようといったようなことを専門的にご検討いただいた形で、発信項目の英語表記なども十分に検討していただいたところでございます。

いずれにしても、基本的には各大学にご判断いただくということで、多くの項目が提示されたわけでございます。

それから、別添「国際的な発信が望まれる教育情報（案）」の中には含めていませんけれども、国や地域の情報発信も大切だという意見もありました。

以上が、専門委員会からの報告でございます。ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

【鈴木議長】

ありがとうございました。

国際発信に関する専門委員会では、平成28年2月までに4回の会議を開催して国際発信項目をご検討いただき、ご報告いただきました「国際的な発信が望まれる教育情報（案）」として取りまとめていただきました。国際発信に関する専門委員会では、専門的な見地から大学ポートレートでの発信に限定せず網羅的に項目を検討していただくとともに、その中から大学ポートレートで発信することが期待される情報も検討していただいております。

本日は、ただいまご報告いただいた「国際的な発信が望まれる教育情報（案）」についてご審議いただき、大学ポートレートで国際発信する情報を決定していただきたいと考えております。追加すべき項目の有無、発信の程度、その他にもご検討いただく必要があるかと思いますが、ご意見をいただきまして、結論を得たいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【山極委員】

入学試験の情報ですけれども、アドミッションポリシーは書くようになっていますが、入学試験の情報というのを記載する欄がないようですけれども、これはどういうふうに検討されたのでしょうか。

【二宮専門委員】

個別の入試手続き等については、例えば、渡日前入学を許可する場合とか、日本に来ないと受験できないとか等がありますので、個別の問題として扱ってございます。各大学の研究科、あるいは、4月入学・秋入学の入試の方法など、それぞれ細かくて大変なので、非常に大切なこととは理解しているんですけど、個別で具体の募集要項とか、そういったものを見ていただくほうが間違いはないと考えています。

それから、在留資格認定証明書の問題やビザの問題もありますので、国によってはビザ問題もあるため、一律に表示するのは難しいと考えています。

【武市大学ポートレートセンター長】

87番から92番は、学部・研究科ごとの部分ではありますが、入試というところが、アドミッションポリシーとは別のところではありますけれども、項目として挙がっているということです。

【二宮専門委員】

大変失礼しました。各学部・研究科個別に、どの程度なのかも含めて、ご判断いただかなくてはいけないといったような議論をしたところでございます。

【山極委員】

多分、留学生にとっては一番知りたい情報ですよ。細部にわたるまでは難しいかもしれませんが、ある程度ざっくり分類して、秋入学を許しているのか許していないのかとか、何かあったほうがいいような気がするんです。留学生にとったら、留学できるかどうかというのはかなり大きな問題で、大学の内容もちろんのことですが、まずはそちらを調べてから大学の内容に入っていくという感じがするんですけど、いかがでしょうか。

【二宮専門委員】

確かに、奨学金があるかないか、渡日前合格を出してもらえるかどうか、その他、留学生にとってアドバンテージの高い情報というのは必要かもしれませんね。それを全体として分類しながら検索していける、日本に来て入学試験を受けなくても入学できる大学リストとか、ご指摘の情報は、検索の観点から工夫していただくということも可能かと思えます。これは各大学が自ら発信しようということで、発信していただく情報でございますので、強制的に分類しながら、これはということは考えなかったものです。

【田中委員】

今のこととの関連ですが、私も検索という点で気になったんですね。何を検索できるかという観点のほうからどの項目が必要かということ割り出していく必要がある。今おつ

しゃったように、入学試験についても、秋入学があるかどうかを検索すると、秋入学がある大学だけじゃなくて、学科が出てほしい。それから学部の名称について大変気になっています。従来どおりではない学部名称が増えていますので、学部名称をそのまま記載していると、中で何をやっているのか非常にわかりにくい場合があります。何らかの共通キーワードというものを設定しておいて、わかりにくいと思われる学部は、そのキーワードで検索すると学科や学部が出てくるというふうになっていれば、一つ一つ全部探さなくても目的にたどり着けると思うんです。やはり検索のほうから入って行って、必要なタグやキーワードを設定しておく必要があるだろうと思います。

各大学からばらばらに出てくるものに共通の判断ができるように、大学ポートレートのほうで定めておくということをするれば、早く目的にたどり着くのではないかと考えています。

【二宮専門委員】

国際発信項目をどう活用させるかといったようなことについては、本運営会議でご審議いただくものと理解していただきましたので、項目という観点で網羅的にさせていただきました。

【原田委員】

国際発信と留学生募集が一緒になっているような気がします。短期大学基準協会で評価をしていくと留学生を募集している学校と、していない学校があるんですね。これを見ていくと、全て留学生募集用の国際発信のような形になっているんですが、募集をしているか、していないかで、分かれるような情報の流れを組む必要があるんじゃないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【二宮専門委員】

最初に外国人留学生を対象として、どんな情報を発信すべきか考えさせていただきますということでご了解いただきましたので、短期大学であろうがどの大学であろうが、留学生という視点から我々を見てもらったら、こういう情報が必要だろうと整理しています。

それから、◎、○、◆の記号は意味がありまして、大学・短期大学でも、留学生をぜひと、あるいは、国際化をぜひという大学・短大と、あまり力を入れていない大学と、使い分けてありまして、◆のところは、強制も何もありません。だから、留学生は関係ない、

ミッションから違って違うという大学においては、○は特に関係ない、あるいは、選択的に発信する。◎は、ぜひ大学ポートレートの中で、国際発信において情報発信をお願いしたいという項目でございます。だから、短期大学においても、◎のところはご協力いただけないだろうかと考えています。そのことで、留学生が来る来ないとはまた別の話と、そのように考えてございます。

【原田委員】

留学生用のアドミッションポリシーって◎になっていますよね。ということは、募集していない学校も◎という形になるんですよね。

大学ポートレートそのものが、留学生を募集している学校という形でスイッチがあって、それで、アドミッションポリシーが、国際的な募集に対するアドミッションポリシーへ飛んでいくのだったらいいですけども、募集していない学校が◎で出てきますと、私どもは募集していませんと書くしかないんじゃないかなと思います。

【二宮専門委員】

留学生の特別選抜があるかと思えますけれども、そのやり方は、年2回、3回入試があるとか、受験科目も全然違うとか、あるいは、日本留学試験が課されるとか課されないとか、そういう制度を設けているか否かがあります。普通の入試で受験していただければ結構ですという情報と、特別選抜を設けているのでどうぞという、そういう実態の中では違いが出てくるかと思えますので、各大学で十分判断できると思っております。

【原田委員】

留学生を募集する場合、こういう項目が必要であるというような形になっているということですね。

【二宮専門委員】

留学生を全く入学させないという大学はどこにもありませんので、普通に試験を受けていただければ誰でも入れるようになっています。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

国際的な責任を持つという意味では、国際的な情報を発信するというのは、大学ポータルをつくる当初から議論されていたことなので、非常によく理解でき、こういう流れは当然だろうと思います。一方で、日本語版で十分な情報が出せていないのに、英語版でどのように出せるかという議論なので、いた仕方がないこととは思いますが、違和感があります。国際的に責任を持つことは非常に大切なことですが、すごく不均等だというのが、私の感想です。

【二宮専門委員】

最初に網羅的にとってご報告させていただきましたので、日本では発信していないのに外国ではというのは当然あり得るだろうと考えています。外国だからこそ、これはどうしても、日本の人には必要ないけれども、必要かもしれないと、そういったことを考えさせていただきます。ただ、本運営会議が最終的にどこまで整理整頓すべきかということは決めるものであって、各国公私立大学の負担の問題もありますし、本当に必要かというご判断も、この委員会ではなさるだろうということでございますので、先生のお立場で、これは要らないというのは、本運営会議でご発言なされれば、もっと少なくなることも考えられます。こちらは126項目も用意してございますので、その差たるや結構なものでございますので。

【水戸委員】

国際発信については、国立、公立、私立の間でも相当格差があるわけです。私立大学も多数あり、規模別にも、グローバル化においても、格差があるわけです。短期大学が入っていますし。そこで共通的に国際発信をするという項目を選び出すのは、これは至難の作業だと思います。

案を見まして、これは任意性が相当尊重されているなと思いました。山極委員や、田中委員からのお話も含めて、◎にするか、そうでないものにするかというのは、もう少し精査していく必要があると思います。

例えば、問題の規模別の格差とか、大学の競争的な指標になるようなものはあまり好ましくないと思います。そういった意味合いでは、相当任意性が配慮されて、◎と、これは任意ですよと、それから、必要ないですよというのは分けられておりますから、案としては、こういう案が出てこざるを得ないんじゃないかなという感じはしております。

【山極委員】

国際発信は網羅的に有効な情報を発信すると、しかも、共通フォーマットでお考えになったと思います。先ほど申し上げましたように、留学生、あるいは、外国の学生、その保護者から見ると、どういう入学試験で、例えば、卒業するためにはどういうことが必要なのか。例えば、1年、2年でどのくらいの単位数が必要なのか、卒業までに124単位と国立大学は決められておりますけど、そういう基準があるのかとか、大学院に上がれば、修士の課程では何をしなくてはいけないのかというような、わりとざっくりしたこと。あるいは、大学間でどういうふうな移動が可能なのかとか、そういった一般的な情報というのは、どこかでまとめておく必要があるのかなと思うんですけど。それぞれの大学でどういうサービスを提供しているのかということは非常によくわかると思うんですけど、基本的な情報というか、4年間あるいは2年間、日本に来て大学生活をする上で何が必要で、どういう条件があるのかということが見えにくいです。その辺のお考えをお聞きしたいです。

【二宮専門委員】

日本留学への誘いなど、日本学生支援機構のStudy in Japanなどで、奨学金のこととか、一般的な情報は結構もう発信されています。ただ、124単位の取り方とか、キャップ制とか、そういうことは全く入っていないと思うんですね。そこまで果たして必要かと。多くの場合、大学院や国費留学生は研究生で来ることが結構あるので、渡日前にアドミッションオフィスによって合否が決まるというのは、まだまだあまりないです。

それから、ディプロマポリシーとか、カリキュラムポリシーに基づいてアドミッションポリシーというのは、留学生にも適用されますので、カリキュラムの概要が紹介されれば、履修モデルも紹介されると思います。世界にはあまりないかもしれませんが、General educationなのか、Liberal educationなのか、そういう共通基盤の教育のことは、ヨーロッパ系の人にはちょっと理解ができないかもしれませんが、それは説明しないとイケない。

深く入り過ぎてしまって、各大学にお願いするには面倒かもしれません。日本学生支援機構で、そちらの情報を整理して発信していただきたいというのは、文部科学省の高等教育企画課や留学生課で調整していただけるかなと思っております。専門委員会で扱うには非常に難しいテーマだと思っております。

【日高委員】

基本的な表の読み方で、8ページのところの◎と○と◆のところの「望まれる」という意味の取り方をどう理解するのがわかりづらいです。◆が任意と書いてあるので、「望まれる」も任意なのでしょうか。とすると、任意に程度があるという意味なのでしょうか。どういう意味で「望まれる」という言葉をお書きになったのか教えていただきたいです。

【二宮専門委員】

これは方針に近いので、強制力はないですね。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

事務局からお答えさせていただきます。

国際発信専門委員会では、あくまでも国際発信を行っていく上で必要な項目をご検討いただいたわけですが、最終決定を行うのは、本運営会議で行っていただくことになります。したがって、専門委員会としては、こういうものが望まれるのではないかというご報告を本日させていただきます、それを踏まえて、大学ポートレートで共通的に発信していこうとするものをどの項目にするか、あるいは、基本的には個別の大学で任意に対応していただくのでいいのではないかという項目はどれかというところを、本日も決定いただければと考えております。

そういった意味で、専門委員会としては、「望まれる」という形で今回ご報告をさせていただいているというところがございます。

【日高委員】

そうすると、この委員会で◎と○と◆の度合いが決まれば、「望まれる」という言葉は消えて、「発信する」、あるいは、「選択する」、「任意に発信する」、こういう表現に変わるということですか。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

はい。そのように考えております。基本的に、大学ポートレートの参加自体は各大学の任意というのが基本方針になっておりますので、その任意性を担保しつつも、大学ポート

レートに参加する場合には、こういう項目は発信をしていただきたい、あるいは、選択的に発信をしていただきたいというような形で整理をさせていただければと考えております。

【日高委員】

任意で大学ポートレートに参加していますけれども、参加した以上は◎のところは共通にやりますということですね。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

国内発信の整理においても、基本的には、共通的に発信をしていただく項目と任意項目という形で整理をしておりますが、共通的に発信する項目であっても、大学のご判断でというのが、現在の国内発信の整理となっております。

【日高委員】

では、◎でも、大学によっては、出たくないという場合は出さなくてよいということなんですね。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

先ほど話があったように、日本学生支援機構でも同様のものが出ていたり、留学生サポートのウェブサイトでも出していたり、各大学が頑張っているところはほとんど全部ウェブサイトに出ているわけですから、わかっている人は、そちらへ行けばいいわけになりますね。

でも、大学ポートレートは、文部科学省が出しており、安心感を与えることができるものだと思います。ただ、留学生が検索したときに、資料にある126の項目だけが並んでいような見せ方はやめてほしいと思います。それだったら他のウェブサイトと一緒にさせていただきます。それだったら、田中委員がおっしゃっていましたが、検索ができて、その大学のウェブサイトへきっちり飛ぶようにできていれば、山極委員が心配しておられた入試についてもわかると思います。これが大学ポートレートだけで全部わかるというのは至難の業で、そんなことは望んでないと思うんです。これをうまく学生に見せるというか、そういうニーズに応えるために、社会的な責任をきっちり果たせるような、トップページ

をぜひお願いしたいと思います。

【鈴木議長】

これは、ある意味、田中委員からも、検索のほうから入っていくというあたりの示唆をいただきましたけれども。この内容そのものではなくて、技術的なものなのかどうかわかりませんが、そういう取り扱いで解決するという問題ではないのですか。

【武市大学ポータルセンター長】

田中委員からご指摘があったように、現在の日本語版の大学ポータルにおいても同じことが言えると思います。つまり、情報の中にタグが付いているとか、そういうことで検索を適切に行えるようにするということは考えておりますので、外国語での発信についてもそういう準備をした上で、今後の大学ポータルの構築、あるいは改善の中で考えたいと思っております。

大学に行けば詳細なことがわかるから、そこへの道筋を与えればいいではないかというふうなご指摘もごもっともかと思えます。外国語での発信についても共通項目を置いてそこからさらに細かいところは大学のほうへ誘導できるようにする、信頼できる情報をもとにしたページを用意しておくのが大学ポータルの役割だと思っておりますので、構築する際には検討させていただければと思っております。

【鈴木議長】

まだ多々ご意見おありかと思いますが、基本的には、この国際的な発信ということはやはり必要であるということは確認していただかなければいけないわけで、それに伴っているようなやり方があるとか、こういうテクニカルな可能性はある、問題があるということはあるとは思いますが、それらをいただいた上で、やはり最終的にはここで決定をさせていただくということになりますので、そろそろそちらの方向に向かわせていただきたいと思います。している次第です。

【水戸委員】

日高委員がおっしゃいましたように、8ページの任意と選択的に発信するということは、本当に任意なのか、選択的に発信するということも、各大学が自主的に発信項目につ

いて任意に選択的に発信をするという意味合いでいいのか。そのあたりは、きちんと皆さんと共通理解をしていく必要があると思います。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

構想といたしましては、◎につきましては、大学ポートレートの画面上に表示をさせていただき項目にしたいと思っております。○については、ご入力いただいた大学、あるいは学部・研究科については、大学ポートレート上で表記は出てくるというような形で整理を考えております。◆につきましては、基本的には、各大学の趣旨、目的、特色等に応じて、個別の大学のウェブサイトで発信をしていただければよろしいのではないかとこのものでございまして、場合によっては、大学ポートレートの画面上にリンクを張るとこのような形での対応も考えられるのではないかとこのことで、検討しているところでございます。

【山極委員】

項目によっては、その量に大学によってもものすごく大きな差が出てくる可能性があるんですね。例えば、京都大学は、2万人を超える学生が在籍しており、クラブやサークルの数も多いです。その活動を紹介するとなれば、どういう形で紹介するかということもありますけれども、細かく書いていけば膨大な量になります。そういうことは、大学間によって差があると思います。これを出したい、これはそんなに出したくないとかあると思うんですが、それを加味していくと、内容について非常に大きなばらつきが生じる可能性があります。

例えば数にしてもカテゴリーを設けて、どのカテゴリーに当たるのかといった表記にすれば一遍でわかるし、並べ方によっても、例えば、5万人規模の大学で1,000人外国人留学生がいるのか、あるいは、3,000人規模の大学で800人留学生がいるところって全然違うわけです。そういう、自分が入ったときにどういう環境がそこにあるのかということを見るために、わかりやすいようなつくり方をしたほうがいいと思います。

だから、項目は網羅的にやっていただいて結構ですが、その量に大きな差があると、見るほうとしても大変だと思うんですね。ですから、詳細はリンクを張るとかいう形にしていただいて、なるべく見やすい形にさせていただければと思います。これだけの項目が並んでいますと、相当違いが出てきそうな気がしますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【鈴木議長】

それでは、事務局で取り入れられるところは取り入れるということをお願いし、ご議論を踏まえて、「国際的な発信が望まれる教育情報（案）」については原案どおり、いただいた意見を反映させた上で決定するというふうにさせていただいてよろしゅうございますか。

ありがとうございます。では、そのようにさせていただきます。

続きまして、大学ポートレートによる国際発信に向けての検討事項について、事務局から説明をお願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

資料 2-2 「国際発信に向けての検討事項」をご覧ください。

大学ポートレートで国際発信を進めていく上で、検討事項（案）を 2 点ご用意させていただきました。

1 つ目、国際発信の体制についてでございます。ご案内のとおり、現在、国内の発信におきましては、国立大学・公立大学・短期大学のデータ収集と情報発信のシステムの構築につきましても、大学評価・学位授与機構が行っております。一方、私立大学・短期大学のデータ収集、システムの構築につきましても、日本私立学校振興・共済事業団が担っておりまして、それぞれ別のデータベースで管理・運用させていただいております。これをユーザーがアクセスする際には、利便性を考慮いたしまして、共通の検索ページを設けて、国公私共通の大学ポートレートの検索ができるシステムになっております。1 つは、国際発信におきましても、現在、国内発信で行っているような同様の体制で運用していくということによろしいのかというところをご審議いただきたく存じます。

続きまして、2 点目の国際発信の時期についてでございます。国際発信の体制を整えるためには、現行のシステムの改修、あるいは、新しくシステムを構築する必要がございます。仮にデータ管理、公表画面の構築を国内発信と同様、大学評価・学位授与機構と日本私立学校振興・共済事業団 2 機関で分担することになりますと、大学評価・学位授与機構の場合ですと、最短で平成 28 年度中にシステム改修等に取りかかりまして、平成 29 年内にはそのシステム改修を完了いたしまして、最短では平成 29 年度内に国際発信を開始する予定となっております。一方、日本私立学校振興・共済事業団におかれましては、平成 28

年度においては、開始のための予算要求を行うということで、平成 29 年度内にシステムの改修を行いまして、国際発信を開始する時期は、早くても平成 30 年度ということになるということでございます。このように、システムを分けるということになりますと、国公立と私立とでは発信時期に約半年から 1 年近くの差異が生じてしまいます。そのような発信時期に差異が出てよろしいのかといったようなところも含めて、ご審議をいただきたく存じます。

事務局でご用意した検討事項（案）につきましては、以上 2 点でございますけれども、既にご指摘をいただいております検索の手法であるとか、留学をする上で、日本における基本的な学校制度の情報、単位制なども含めた、そういった我が国の高等教育の状況をどのように網羅的に発信していくのかといったようなことも含めて、必要な事項がございましたら、このたび併せてご審議いただければと考えてございます。

以上でございます。よろしく願いいたします。

【鈴木議長】

ありがとうございます。

今、事務局から 2 つ、この会議で決めていただきたいという要請がありました。1 つは、国公立は大学評価・学位授与機構で、私学は日本私立学校振興・共済事業団で作成するというふうにするということと、もう一つは、おおよその時期の問題ですけれども、大学評価・学位授与機構と日本私立学校振興・共済事業団では、時期的に半年から 1 年近くの差が出るということで、始まる時期を同時に行ったらよろしいのか、あるいは、できたところから発信するということがよろしいのか、その 2 つについてご意見をいただいて、決定したいというところであります。

【日高委員】

私学の場合は検討を若干要しますし、一度発信すると消せない情報も出てくるので、慎重にいかざるを得ないと思いますので、開始時期に落差があっても慎重にやったほうがいいのではないかと考えております。

私学の場合は、平成 29 年に予算を編成して、平成 30 年度実施だと、かなり検討の時期がありますので、各大学で細かいところまで、リンクを張るにしても、検討ができるかなと思います。平成 28 年ですと、かなり急でありまして、作業が難航すると思います。日本

私立学校振興・共済事業団の意見も聞かなければいけないと思いますが。

【佐藤委員】

ありがとうございます。私学事業団は、大学ポートレートも含めた情報を、学校法人基礎調査という形で、年度の初めに取っています。その情報の一部を大学ポートレートにも反映される形をとっております。ですから、システム開発の工程を考慮すると、運用開始は、平成30年度位からでないといけないと思っています。

この学校法人基礎調査は、1つのデータを複数の目的で使用するもので、年一回の調査データを私学事業団の業務全般に使っております。補助金の申請などにも使えるように設計をされており、この大学ポートレートも、同じようにやっていきたいと思っております。また、このことは、私学事業団が設置している私学情報推進会議に諮って、皆さん納得いくような形でやっていきたいと思っております。

【鈴木議長】

そのほか、いかがでしょうか。

もう一つ、国公立は大学評価・学位授与機構で、私学は日本私立学校振興・共済事業団でと、従来どおりという取り扱いのことですが、これはいかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

それでは、今いただいたご意見ですと、国公立は大学評価・学位授与機構で、私学は日本私立学校振興・共済事業団でということと、開始の時期についても、慎重に準備する必要があるということですので、できたところから発信するという取り扱いでよろしゅうございますか。

ありがとうございます。それでは、国際発信につきましては、ただいまのご議論を踏まえて、大学ポートレート運営会議に係る実務者協議会で調整しつつ、大学ポートレートセンターにて国際発信についての案を策定していただきまして、大学ポートレート運営会議（第5回）に報告していただくということにいたしたいと思っております。

続きまして、大学ポートレートによる教育情報の公表の状況につきまして、事務局から説明をお願いします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

資料3-1「大学ポートレート公表大学数」をご覧ください。各大学・短期大学の大学ポートレートへの参加状況をまとめたものでございます。大学ポートレート運営会議（第3回）でご報告した時点より、私立大学で2校、私立短期大学で1校の参加がございまして、参加校数が微増してございます。全体といたしましては、約94%の大学に現在参加をいただいているというような状況でございます。

続きまして、資料3-2「公表画面のアクセス数について」でございます。公表画面、大学ポートレートへのアクセス状況を整理した資料でございます。これまでのページビュー数という形でお示しさせていただいております。平成28年2月末時点で、合計で約700万ページビュー数となっております。月平均で約40万ページビュー数ということで、こちらも前回ご報告時は、月平均が約34万ページビューでございましたので、月平均閲覧数といたしましても、約6万増となっている状況でございます。

ご報告につきましては、以上でございます。

【鈴木議長】

ただいまの説明にご質問がございましたら、お願いいたします。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

参加状況が少し増えているということでいいんですが、資料3-2「公表画面へのアクセス数について」のアクセス数、これでは十分な説明になっていないという意見が前回いろんな方から出ているにもかかわらず、前回と同じ情報を出すのでしょうか。つまり、ページビューは、誰かが1回閲覧するとすぐ数えられますし、実際に何人がアクセスしたかフォローしていないですね、ということです。それから、学生のアクセス数が受験の時期にどこまで上がったのか、その説明はないのでしょうか。

【武市センター長】

前回にもそういうご議論があったことは承知しております。大学ポートレートセンターとしても検討しておりますが、当初、このシステムを個別に構築したこともあって、共通にデータの収集できる情報がこれだけしかございません。これはシステムの構築時に組み込んでおくべきことであったというふうに考えます。例えば、国公立版について言えば、その後、平成27年7月ごろから現在まで、訪問者の属性等を含めたデータを収集しており

ます。もちろん、こういったデータを収集するだけで十分であるとは考えておりませんが、現時点でこういう形でご報告せざるを得ない状況だということをご理解いただければと思います。

もちろん、これから改修の機会に、どういうふうなことが有効な情報であるかというふうなことも検討しつつ進めたいと考えております。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

そういうことですか。以前の議事録を見ると、こういうことを解析できますかという問いに対して、それはできますと書かれていましたので、次のときにはもう少し詳しい資料が出て、会員校に対してもアピールができると、私はそう思って期待していたんですけど、今のお話だと、そうできるような状況にはまだなっていないということですね。

数字を見ると、飛躍的に大きくなっているわけではなく、じわじわと大きくなっています。どこかで増えるような時期があるんだろうと期待していたんですけど、そうならない。とても残念です。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

簡単に国公立の状況だけご報告させていただきますと、1つの手法として、アクセスされたところのドメインで分析をしたデータがございます。1つは、当機構の niad.ac.jp からのアクセスがどれぐらいあったのか、あるいは、ac.jp、こちらは大学等の公共機関、それから、高等学校の ed.jp、その他という形で、別途調査をいたしました結果、当機構がシステムのメンテナンス等でアクセスしているのは、全体の割合の 5.7%でございます。一方、ac.jp、大学が入力をいただきまして確認をしている等のということで、大学がアクセスをいただいている、あるいは、大学の先生がアクセスしていただいているというのが、39.2%でございます。高等学校、ed.jp は若干少なくて、1.4%でございます、そのほかのドメインからのアクセス、一般の方も含めたドメインのアクセスというのは、59.4%というような状況になってございます。

【水戸委員】

このアクセス数の問題は、少な過ぎるという、皆さん共通の感じだろうと思います。私もとときどき見ますけれども、やはり大学によっては、ウェブサイトが充実していて、大学

ポートレートはおおむねに付き合っていると思われる大学が見受けられます。大学ポートレートに入りますと、その大学のウェブサイトには飛ばないと本当の情報が得られないようなぐらいの情報しか掲載していない大学があるわけですね。大手の私立では、ほとんどウェブサイトには飛ばようになっていて、読みたい情報は掲載されていないかと思受けられます。そのあたりが、国公私立全大学に解消されない限り、このアクセス数は伸びないと思います。

第2点は、やはり主たるユーザーの高校生の利用動向がどうかということです。高等学校の進学担当の先生は見られるけれども、高校生はほとんどスマートフォンを使って、パソコンからなかなか見ません。この2点を解決していくと、アクセス数は伸びると思います。

【鈴木議長】

いかがでしょうか。

そういう利用可能な、いろいろな道具が競争的な状況の中で出現してきて、こちらが思っていたような使われ方がなかなかできないという状況もあるかと思えます。

【山極委員】

前回、ステークホルダーは誰かという議論があったと思うんですね。産業界の方々からの意見に答えていないというようなご意見も文部科学省からありまして、その辺に対する工夫というのはある程度なされているのでしょうか。

それから、今、アクセスに関する分析がありましたけれども、例えば、企業からのアクセスというのはどのくらいあるかというのはわかるのか、わからないのかあたりをちょっとお聞きしたいと思います。

【武市大学ポートレートセンター長】

先ほど申し上げましたように、現状、ステークホルダー・ボードごとにデータを収集するといったふうな仕組みが組み込まれていないことは事実でございます。先ほどの事務局からの説明は、あくまでもアクセスした方のドメインから判断してというふうなことで、一般の中に企業の方が入るというふうなことになっているかと思えます。

このあたりのことにつきましては、ステークホルダー・ボードでのご意見も踏まえて、

これからどう取り組んでいくかというふうなことを考えたい。私どもとしても、早く解決策を講じたいところですが、残念ながら、こういう状況になっていることをご理解いただければと思います。今後、来年度等に関しましては、改修の機会に、できるだけそういったことの情報も得られるような仕組みをつくっていきたいと思います。ちょうどこれで、国公立も含めたのが1年回ったという状況でございますので、これを経験にして、来年度以降の方針を決めたいと考えております。

【鈴木議長】

山極委員からステークホルダーについてのご質問がございましたが、次に、ステークホルダー・ボードからの意見の報告をお願いしたいと思っております。

大学ポートレートの状況につきましては、色々ご意見いただきましたけれども、事務局もどういう人がアクセスしているかということ、いろいろなやり方で解明していこうというところでございます。

続きまして、ステークホルダー・ボードからの意見の報告をお願いいたします。ステークホルダー・ボードについては、平成27年12月に会議を開催いたしまして、意見をいただいたところであります。本日の会議では、ステークホルダー・ボードの小林専門委員からご報告をいただくこととしております。

【小林専門委員】

ステークホルダー・ボードにつきましてご報告をさせていただきます。

最初に、事務局から、大学ポートレートの目的、役割、状況について、あるいは、文部科学省における中央教育審議会における審議状況について説明がありました。その後で、大学ポートレートの概要、公表状況について、理解の共有に努めました。その上で、各委員から、高等学校等の学校関係者、産業界関係者、大学における教育情報の公表・活用等に関し意見を有す者というようなステークホルダーから、それぞれの視点で意見を伺いました。この伺った意見につきましては、資料4「平成27年度大学ポートレートステークホルダー・ボードでの主な意見」に整理しております。ステークホルダー・ボードの役割は、大学ポートレートに対する意見を述べることでありまして、委員からの意見を集約して、それを本運営会議に伝えるということではありませんので、結論という形ではまとめておりません。

具体的に述べられた意見については、資料4をご覧いただきたいわけですが、この中でも、順番にご説明いたしますが、比較機能や中退率等については、こういった掲載項目については、大学ポートレート（仮称）準備委員会のときから非常に激しい意見の対立がありました。その中で、私はワーキンググループの構成員だったのですが、鈴木委員長と、「小さく生んで大きく育てる」という方針のもとで共通の項目だけに絞ったという経緯がございます。ステークホルダー・ボードの中では、やはり掲載項目数が少な過ぎるとか、比較ができないというようなことについては非常に厳しい意見が寄せられたということ、まず冒頭に述べておきたいと思います。

以下、資料4「平成27年度ステークホルダー・ボードでの主な意見」に従ってご説明いたします。

まず最初に、公表画面ですが、高等学校での進路指導で大学を比較するので、1つの画面で複数の大学が表示されることが望まれるという、今までここでもご議論になっていたことですが、やはり比較の機能がない。これは検索と非常に関係しているわけですが、そういった基本情報や入試選抜の形式などを比較できる形にしていきたいという意見がありました。

それから、学生からも、同じようなタイプや分野の大学を比較したいという要求が非常に強く出ているというようなご意見もございました。この点につきましては、以前から画一的なランキングにならないよう、大学ポートレート（仮称）準備委員会でも考慮しながら論点整理を行いました。このため、現在ではペーパービューといたしまして、比較ができないような形になっているということで、この点については非常に議論がありました。結局、このままでは利用者としては非常に使い勝手が悪いものになってしまうし、これでは高校でも、進路指導に使えないというような意見がありました。一方で、ランキングにならないように配慮するという事は非常に重要なことでもありますので、ランキングにならないような情報から始めてはどうかという意見がございました。それに対して、今はそういう時代じゃなくて、もう全て公表すべきだというようなステークホルダーのご意見もありました。ワーキンググループの中でも、これは非常に激しく意見が割れた問題です。事務局からは、大学ポートレート（仮称）準備委員会の段階では、比較機能は設けないということで一応合意を見ているということで、これまで進んできたというような説明もありました。

次に、公表項目に関しまして、リンクではなくて、大学ポートレートの中だけで大学の

姿が読み取れないと、こういった大学ポートレートをつくる意味がないのではないかという意見がありまして、大学独自のウェブサイトへ直接アクセスすれば済むことになってしまふということが意見としてございました。これは大学ポートレートの根本的な問題だと思うのですが、先ほども意見としてございましたけれど、リンクも多用しなければいけないという問題と、逆に、それじゃ大学ポートレートの独自性はどこにあるのかということ、両方を考えなければいけないわけです。詳細についてはリンクを参照していただきたいということになるかと思いますが、大学ポートレートとしては、共通のフォーマットで大きな姿を見せるということが非常に重要だというような意見がありました。

それに関連して、書式や定義など基本的なところで統一があまり図られていないので、非常に見にくいと思います。少なくとも国公立間で統一するべきではないか。それから、そういった共通のフォーマットで作成することによって、各大学の手間も省ける面もあるのではないかというようなご意見がありました。これは、先ほども本運営会議の中でもご意見ありましたが、共通フォーマットにすることによって、きちんと信頼性の置けるものをつくるというのが大学ポートレートの目的であるという意見がありました。

公表項目についてですけど、学部で学べることや就職先がわかるものが望まれる。カタカナや長い名称の学部では何を学べるかわからない。進路指導についての情報や奨学金のフォローアップの情報というのは非常に重要である。これは先ほどの国際発信でも出ていたことと全く同じです。

それから、中退率や定員充足率は大学を判断するのに非常に重要な情報であるから、生徒が大学選びの参考にするためにはやはり必須ではないかというようなご意見がありました。

これに関連して、民間ウェブサイトと比べて足りない情報を増やしていくとか、そういう発想でやっていくのではなくて、大学ポートレートとしてきちんとした情報を出すことが重要であろうという意見がありました。

それから、検索項目は、利用者をそういう形で比較できるような形で誘導するわけですから、非常に重要なわけですけど、現在のところ、それが非常に不十分である。例えば、関東の経済学部の授業料を比較するとか、そういうことは学生にとっては非常に重要な情報だと思うんですけど、現在ではそういうことが全くできない状況です。

一方で、小規模な地方私立大学が定員を満たせない状況というのがあるわけですので、大学ポートレートの情報をどこまで公表するかということは、もう少し慎重であるべきだ

というご意見もございました。

それから、高校生や保護者、教師からのアクセス、ステークホルダーとして一番考える人たちがアクセスするためには、やはり大学の姿がわかることが必要ではないかというご意見もありました。参加が任意だという先ほどのご議論がありましたけれど、今後、外部から見て、やはりだんだん出していくという形でまとまっていくのではないか。例えば、定員充足率を公表するかどうかというような問題もあるわけですが、学生から見ると非常に重要な情報であるから出すべきだという意見もございませし、先ほど申しましたように、今、非常に大学が厳しい状況なら出すべきではないという、両方の意見がございました。

また、それに関連して、進路に関する情報が任意項目になっているので、あまり使えないのではないかということ。

広報の関連のことに行きますけれど、大学評価・学位授与機構と日本私立学校振興・共済事業団のシステムがばらばらである、やはりそういう印象が否めません。トップ画面への戻り方がわかりにくくて、2つにばらばらになっているということですね。非常に工夫されて、トップ画面も幾つかの項目をつくられていると思うんですけど、まだまだ不十分であるというご意見がありました。特に、国公立と私立とある程度違っているというのは、やむを得ないという面もあるという意見もありますけれど、やはり1つの大学ポートレートとして見えるということを重視していただきたいというのが、多くの人の意見だったと考えております。

先ほどもアクセスについてお話がございましたけれど、これがやはり問題ではないかとされております。特に高校の委員の方からは、高校生が利用できない形では、そんなにアクセスが伸びることはないということで、その辺を考えていただきたいということです。総じて言えば、現在のあり方では、ページビューだけでは比較ができないし、検索も不十分であるというのが非常に大きな意見としてありました。

私からは、意見をまとめていないで、以上のような様々な意見を今述べましたが、2つの点を補足させていただきました。

1つは、ステークホルダー・ボードに大学ポートレートの関係者、これは様々な大学ポートレート（仮称）準備委員会の委員ですとか、ワーキンググループのメンバー、あるいは、その他の方で、創設にかなりかかわっておられた方もいらっしゃいますし、私学のほうの委員会でご意見をお持ちの方とか、いろんな方がいらっしゃいますので、そういう方

を招いて、もう少し広げて意見を聴取すべきではないかということです。

もう1つは、ステークホルダー・ボードの開催について、本運営会議に合わせて、年2回程度開くことが望ましいのではないかというご提案をさせていただいて、ご了承いただきました。

私個人の意見は、あと幾つか付け加えさせていただきますと、活用について、大学ポートレート（仮称）準備委員会でも議論されておられません。今後、どのようにこの大学ポートレートを活用していくのか、これはステークホルダーを学生と保護者に絞ったために、それ以外の活用ということはほとんど議論されておられません。先ほど企業、あるいは雇用者の方ということもありましたし、研究者にどのように活用してもらうかというようなことについては、ほとんど議論がされていない状況です。

それから、先ほどステークホルダーの誰がアクセスしているかわからないという点について、簡単なアンケートが作られているんですが、これをもう少し充実させることが必要であろうと考えております。

最後に、虚偽の記載があったとき、どのようにするかという問題を考えていただきたいです。韓国では、非常に多くの項目が大学情報として公表されていて、ペナルティもあるのに虚偽情報が後を絶たないという問題があるとお聞きしています。このことは今後問題になるかと思いますので、そこは本運営会議で議論していただけたらと思います。

【鈴木議長】

ありがとうございました。

ただいまの説明にご質問ありましたら、お願いいたします。

【田中委員】

比較ということをおっしゃったときに、ランキングにならないようにという配慮があるということだったんですが、比較とランキングはそもそも違うと思うんですね。比較というのは、例えば、同じ名称の学部があったときに、それを比較してみると、全く違う学科が中にあるとか、そういうようなことがわかるのが比較であって、どちらが偏差値が高いかみたいなことは全然出てくる必要がない。そういう意味で様々な比較がやはり必要で、例えばAO入試があった場合には、どういう入試であるのかの違いが当然出てきますし、先ほどの学費の問題、これは簡単に比較できるわけで、細かい数字までは出てこなくても、

大体どのぐらいという大まかな比較はできるはずですね。

例えば、先ほどの資料4「平成27年度大学ポートレートステークホルダー——ボードでの主なご意見」の公表項目の中で、学部で学べることや就職先——就職先はともかく、学部で学べることというのは、フリーワード検索で検索してみても、出てこないわけです。そういうようなことが出てくるような工夫というのは、やはりまだまだ必要で、そのときには統一フォーマットってとても大事だと思うんです。統一フォーマットがあれば、どんな大学でも、そこにはめ込んで表現せざるを得ませんので。そういうものを使って、先ほどから言っている検索につなげていけば、統一的な基準の中で出てくるので、そこが大事なのではないかと思います。

もう一つは、公表項目の最後のところに、解釈が必要なのではないかと。大変難しい問題ではあるんですが、そのうち考える時期が来るのではないかと考えています。これもランキングではなくて、大学として備えておくべき事柄のバランスが取れているかどうかとか、そういう解釈というのはあり得ると思うんですね。規模との関係でのバランスであるとか。大変難しいと思いますけれども、ごく基本的な評価というものはあり得るだろうというふうには考えています。

【小林専門委員】

比較とランキングが異なるというのは、おっしゃるとおりです。ワーキンググループ、大学ポートレート（仮称）準備委員会でも、そういう意見はございました。ただ、ランキングで一番問題になったのが中退率でありまして、これが検索できて、並べると、それでわかってしまう。ですから中退率や卒業率のようなものについては検索機能を持たせない方がよいのではないかという議論から始まったんですけれど、それが全部検索機能は必要がないという議論に収れんしてしまったということです。

定員充足率も全く同じ問題で、やはり数量的なものというのは非常にわかりやすいので、田中委員おっしゃるように、比較と違うんだとおっしゃっても、やはり並べられてしまうのです。民間でもさんざんランキングはつくられているわけですから、そこに任せればいいわけで、大学ポートレートはそういう場ではないという意見が非常に強くあり、そういう形になりました。

ただ、比較可能性というのは非常に重要ですから、ランキングにならないということは留意しながらも、やはりやっていかなければいけない。例えば、授業料などはランキング

にしても意味はありませんが、大学選びの参考になるという意味では、非常に意味があるわけですから、その辺の違いを十分考えるということが重要だろうと思います。

それから、例えば、アメリカではコモンデータセットという共通のフォーマットをつかって、それでもうきちんと大学情報を公開するというをやっております。そういったことがこの大学ポートレートの役割だと私は思っておりますので、その辺は十分考えて、今後運営していただければと思います。

【麻生委員】

今出ました中退率や定員充足率についてですが、定員はある一定の数字の積み上げで設置基準が決まっているということを考えます。端数の数字にちょうど合わせるというのはなかなか難しいと考えますと、50人の入学定員で20人しか来ない。じゃあ、20人に下げればそれでいいのかという問題や、教職員免許法、他の資格との関係もあり、充足できていない短期大学が、特に地方には多いです。今、政府で地方創生等に力を入れていらっしゃいますので、その辺を解決すべきものとして、今後、これを出さ出さないというよりも、否定的でなく、肯定的なものに何か説明をしていただけるようなものがないと、数字のみ、比率のみが先走ってしまうという事情もあります。

場合によっては、中退して、次のステップに行こうという人もいるかもしれませんが、定員充足率に関しましては、例えば保育士や幼稚園教諭が足りないから一所懸命努力しているというようなことも含めて、いろんな事情があると思います。数字で単純に出されるだけでは大変ダメージが大きいので、できれば、その中退率や充足率の説明をいろんな角度からしないと数字が先走りする懸念があると思います。

【鈴木議長】

ありがとうございます。

ステークホルダー・ボードからの意見についても、後ほどご議論いただくことといたしたいと思いますので、一旦取り扱いを終了させていただきます。ありがとうございました。

続いて、教育改善のための情報の活用についてでございますけれども、大学ポートレートで収集している情報を用いた国公立大学・短期大学の教育改善のための情報の活用について、事務局からご報告をお願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

ただいま小林専門委員からの問題提起もございましたけれども、大学ポートレートの役割としては教育情報の公表と、大学の教育改善に向けた活用、それから、負担軽減という3つの大きな目的があるわけですが、これまではこの公表を中心にご議論いただいていたわけでございます。

まず、参考資料1「大学ポートレート（仮称）構築のための論点整理（その1・2）」をご覧くださいければと思います。参考資料1は、本運営会議の前身でございます大学ポートレート（仮称）準備委員会がおまとめいただきました論点整理でございます。論点整理（その2）の4ページ目（2）に、教育改善のための情報の活用に関する取組の進め方についてということで、大学ポートレート（仮称）準備委員会で整理いただいたものでございます。

○の3つ目でございます。各大学の教育改善のために、大学ポートレートの活用を段階的に進めていくことが現実的であり適当であるとされておりまして、その後①から④が、その進め方として記載されているわけでございますけれども、まず①当面、設置主体別の各大学団体において、大学のニーズや要望を踏まえつつ、具体的な検討を進めていただく。②情報の活用に着手できる環境が整ったところから、活用を進めていく。③運営委員会において、その取組状況を報告し合い、更なる充実につなげていく。④情報活用の意義や有用性の理解を深め、将来的には、国公立全体を通じた情報の活用の充実を図っていくことが望ましい。このように整理をされているところでございます。

本日、この①から③に基づきまして、国立大学、公立大学、短期大学の取組として、各大学団体の了解をいただいているものについて、ご報告させていただきたいと思っております。

資料5「教育改善のための情報の活用について」をご覧くださいければと思います。

1ページ目でございますけれども、大学評価・学位授与機構のデータベースの構造を表わしたものでございまして、大学からご提供いただいているデータにつきましては、この表にございます、大学情報ウェアハウスと大学評価・学位授与機構では呼んでおりますけれども、こちらのデータベースに大きく3つに分類されておりまして、それぞれ重複するデータもあることを、円を重ねてお示ししているものでございます。大学評価・学位授与機構では、このデータベースを用いまして、左の矢印にありますように、社会の利用者に提供する、あるいは、大学ポートレートで公表する。このほか、右下の矢印にありますとおり、大学に提供して活用していただくという形で、このデータベースの運用をさせてい

ただいております。

2ページ目でございます。こちらは大学基本情報の提供の現状ということで、現在、こちらは大学ポートレートではなく、大学評価・学位授与機構のウェブサイト上に載せているものでございます。大学ポートレートが稼働する前に、大学ポートレートの先行実施というような形で掲載していた国公立大学の基本的な情報はその下の3ページ目になります。こういった大学別の学生数、教員数から卒業後の状況といったようなところまで、こういった情報を各大学からご提供いただきまして、これをエクセル形式で一覧の形でウェブサイト上で情報提供してございました。

大学ポートレートが稼働してからは、このようなエクセル形式での一覧でのダウンロードができるようにはなっていないわけでございますけれども、国公立大学、短期大学の情報については、大学ポートレートに掲載されている情報を、このような形式でもダウンロードできるようにすること、また4ページ目の右側、Web API という形式、これはデータベース間のデータを活用しながら比較分析をしやすいするためのフォーマットとでございまして、5ページ目のような形式でダウンロードすることになります。これにより、例えば、4ページ目上の枠囲いの、政府関係の公的機関が保有するデータベースのデータと組み合わせて自由分析ができるようになるということでございます。

このように、国公立大学、短期大学のデータに各大学あるいは社会の方々が簡便にアクセスして入手しやすくし、大学教育の改善のためのデータの活用や、様々なデータの活用ができるような環境を整えてはどうかということで、現在、検討を進めているところでございます。

国公立大学の情報活用に関する取組状況についてのご報告でございました。以上でございます。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

この取組みも、大学ポートレートの計画の一部なのでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

最初は大学ポートレートは、活用、公表という順番になっておりました。ただ、活用の議論が十分に進められなかった。あるいはまた、本運営会議においても、活用の議論がまだ進められていない状況でございますので、できるところから活用できるようにとしてい

ました。

それから、先ほど事務局からも説明ありましたが、大学側の負担軽減ということに関しては、各種調査が大学にいろいろなところから来る。そういうものに対して、公表することによって、大学のほうでは、その答えるときの負担が減るだろう。そういうことも当初よりありましたので、大学ポートレートが、こういった活用の部分もこれから議論して深めていく必要がある、そういう認識でございます。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

実は、公立大学協会では、エクセルで同様のことをずっとやっています。国立については、1年でやめて、再度始めることになったと私は受け止めていたんですけど、そういう状況にあるということですね。活用を進めるためには、こういうことをやればできるようになりますという情報と受け止めたらいいんですか。

【武市大学ポートレートセンター長】

国立大学と公立大学については、ご了解いただいているというふうなことです。平成24年度のデータしか現在ではできておりませんが、それ以降のデータをこれから、少なくともエクセルの形、あるいはまた、新たなAPIの形態も含めて検討して、公開していきたいと考えています。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

ここへ参加している国公立大学のデータは、ここに一覧で掲載されていますということですね。

【武市大学ポートレートセンター長】

はい。公立大学に関しましては、100%となっておりますので、今後協議をさせていただくということで、国立大学については、全てもう参加しておりますので、話をしたいと考えています。

これは小林専門委員からもご指摘ありましたように、研究者等が使うという環境が全く今までできておりませんで、平成24年度だけデータがあるという状況だったのですが、その後を進めたいと考えています。

【鈴木議長】

それでは、ご意見もあるかと思いますが、次に進ませていただきます。

認証評価機関連絡協議会からの要望でございます。認証評価機関連絡協議会は、機関別及び分野別の認証評価機関 12 機関で組織されている協議会でございます。我が国の高等教育における質の保証と認証評価の充実に向けた関係者間の意識の醸成を図るとともに、認証評価機関の連携及び情報の共有を促進するということを目的として設置されております。

前回の本運営会議でもご紹介いただきましたように、中央教育審議会でも大学ポートレートに対するご意見をいただいております。それを踏まえて、同協議会において認証評価における大学ポートレートの活用について議論が進められてきたところです。

本日は、認証評価における大学ポートレートの活用について、同協議会から本運営会議に対する要望として「大学ポートレートの充実についての要望書」をいただいております。同協議会の議長も務めておられます岡本委員からご説明をお願いしたいと思います。

【岡本委員】

認証評価機関連絡協議会では、中央教育審議会からの意見等を踏まえ、認証評価における大学ポートレートの活用について検討してまいりました。このたび、認証評価機関連絡協議会から大学ポートレートに対する要望として、「大学ポートレートの充実についての要望書」を取りまとめましたので、この協議会の議長としてご説明をさせていただきます。

資料 6 「大学ポートレートの充実についての要望書」をご覧ください。1 枚目のに、要望を出させていただくことになった経緯等を記載しております。2 枚目以降が、具体的に要望する情報の項目というものでございます。

まず、認証評価における大学ポートレートの活用につきましては、平成 26 年 2 月の大学ポートレート（仮称）準備委員会（第 5 回）におきまして、「大学評価に係る大学の負担軽減を図る観点から、各評価機関において、大学ポートレート（仮称）に収集されている情報を、認証評価においても利用することが適当である。」との検討結果が示されております。参考資料 1 の 9 ページに記されております。

また、中央教育審議会大学教育部会におきましても、「大学ポートレートについては、認証評価でも活用できるよう一層の充実が必要ではないか。」との議論がなされております。

す。大学ポートレート運営会議に対しても、文部科学省より、大学ポートレートの認証評価での活用についての意見をお伝えいただいているという経緯があるということで、認証評価機関連絡協議会の議長としてもその点を認識しているところでございます。

このような背景のもとに、認証評価連絡協議会におきまして、認証評価における大学ポートレートの活用について検討を行っていたところでございます。今後の認証評価における大学ポートレートの活用に向けて、別紙をご覧ください。新規の35項目の情報の収集・蓄積を要望させていただくものです。

資料6の2枚目の別紙をご覧ください。大学ポートレートで国公立共通で公開している情報に、認証評価に当たり、評価機関共通で求めているものを黄色の網掛けで追加したものでございます。

要望する情報としては、7ページをご覧ください。校舎、校地、図書館など、大学ポートレートとしては新しい情報もございます。一方では、6ページにあるような、収容定員や学生数のように、既に収集・公表している情報もございます。これは、学部・研究科単位の情報は公表していますが、認証評価で用いるために、学科・専攻の単位の情報が必要となるか、過去5年分の情報が必要という理由がございますので、このような認証評価の実情に沿って、集積して蓄積していただきたい情報として要望させていただくものでございます。

なお、要望する情報について、認証評価での活用のために、これらの情報の公開までを求めているものではございません。

協議会からの要望については、以上でございます。よろしくご審議をお願いいたします。

【鈴木議長】

ありがとうございます。

この件につきまして、どのように取り扱ったらよろしいでしょうか。ご意見をいただくということでしょうか。あるいは、岡本委員から要望書を説明いただいたということだけでよろしいんですか。

【岡本委員】

議長としては、要望して、それを受け止めて、ぜひこの場でご検討いただきたいということでございます。

認証評価のときは各大学ごとにこういう情報が出てくるわけですが、大学の立場に立ってみれば、こういう情報がどこかに経年でたまっていけば、必要に応じてそれを出してこっちへ出すというようなやり方もいろいろ考えられるわけなので、ここでは蓄積というようなことをお願いしたいというのが協議会としての立場でございます。

【鈴木議長】

要望を承りました。そういうことで取り扱わせていただきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、今後の大学ポートレートの改良に向けた取組につきましてでございます。ここまで公表の状況から始まりまして、ステークホルダー・ボードからの意見、認証評価機関連絡協議会からのご要望、それから、教育改善のための情報の活用について報告を受けてきました。大学ポートレートは「小さく生んで大きく育てる」ということを合言葉にスタートいたしまして、これから大きく育てていくのが本運営会議としての使命であると思っております。ここまでの報告等を踏まえまして、大学ポートレートを大きく育てていくために何をすべきか、今後の大学ポートレートの改良に向けた取組についてご審議いただきたいと思います。

まず、事務局から資料に基づき説明をお願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

それでは、資料7-1「今後の大学ポートレートの改良に向けた取組について」をご覧ください。

本日これからご議論いただくための論点として整理をさせていただいているものでございます。先ほど小林専門委員からご報告をいただきましたステークホルダー・ボードからのご意見等を踏まえまして、本運営会議で今後の大学ポートレートの方向性をご検討いただきたいと思いますということを列挙させていただいております。

1つ目でございます。大学ポートレートの魅力を高めるための改良についてということで、ステークホルダー・ボードでも、民間ウェブサイトと比べて足りない情報をただ単に増やしていくのもどうかというご意見もある一方、先ほどご報告させていただきましたが、大学ポートレートの現在のアクセスのページビュー数が約700万アクセスということで、ステークホルダー・ボードでは、民間ウェブサイトでは年間1億アクセス、ページビュー

が普通であるということで、かなりの差があるという状況もあります。そういった中で、大学ポートレートの魅力を高めるために、どのように改良していけばよいのかということをご審議いただければと考えております。

それから、公表画面の機能の充実に向けた改良について、こちらも種々ご意見いただいております。こういったご意見を踏まえまして、どのような機能を充実すべきか、ご審議いただければと思います。

それから、情報の充実に向けた改良についてでございます。認証評価機関連絡協議会からのご要望や、受験生や学生が求める学生支援に関する情報、中退率や定員充足率などの項目追加に関するご意見を踏まえ、どのように情報を充実すべきかといった点をご審議いただければと思います。

その他、大学の負担軽減として、大学情報を社会にどのように提供していくべきか、また、大学は教育改善のために情報を活用しやすくするためにどのようなことに取り組んでいくべきかというところを論点として挙げさせていただいております。このほか、大学ポートレートの改良に向け議論すべき論点がございましたら、併せてご審議いただければと考えております。

なお、ご参考までに、資料7-2「大学ポートレート運営会議（第3回）での主な意見」、もご参考いただきながら、ご審議いただければと考えております。

説明につきましては、以上でございます。よろしくお願いいたします。

【鈴木議長】

それでは、これまでのご報告やただいまの説明も踏まえまして、ご意見、ご質問をお願いいたします。

【山極委員】

今まで出てきた問題は、大きく分けると3つあると思います。

1つ目は、大学の負担をこれ以上大きくするべきかどうかについてです。2つ目は、ステークホルダーをどう考えるか。それらからの反応をどういうふうに盛り込んでいくかということだと思います。大学側はただ情報を提供していればよいというのではなくて、やっぱり利用者のニーズと機能を考えながら、大学ポートレートをつくっていく必要があるんじゃないかということですね。もう一つは、国際発信だと思います。

最初の問題で言えば、個々の大学のウェブサイトと非常に重複している部分が多いわけです。ですから、具体的な細かな情報はリンクして飛べるようにしておいて、先ほど田中委員がおっしゃいましたように、検索機能を充実させながら、なるべく少ない情報で、もし詳しい情報が知りたければ、各大学のウェブサイトへ飛ぶと。その知りたい情報は何かということをもまず考えなくてはいけないと思うんですね。学生なのか、あるいは大学の研究者なのか、あるいは企業なのかによって、知りたい情報はおのずと違って来る。毎年この数だとか全て小さな項目について更新しなければならないとなると、大学にとっては大きな負担です。例えば、先ほど私が申し上げたように、カテゴリ別にチェック項目を分けておくとか。何が知りたいと言え、どういう学部がありますか、研究科がありますかというときに、それを押せば、その研究科が持っている大学名がどつと出てくる。その中で、もう少し詳しい項目を知りたければ飛んでいけるというような、知りたいことから入っていく形の機能を付与していくやり方が必要ではないかと思えます。その質問に応じて、出てきた情報をさらに詳しく知ろうと思えば、それは各ウェブサイトへ飛べばいい。日本の大学全体についてこういうことを知りたいというときに、大学ポートレートが機能しているかと言え、ほとんど機能していないと思えます。

それは国際的な話もそうです。つまり、日本の国内であれば常識なことが、海外の方から見れば常識ではないことがたくさんあるわけですね。日本の大学は入学試験が非常に難しく、ただ卒業するのは簡単だなんていうことは、海外と反対ですから、そういうことをまず全然皆さん知らないと思えますし、大学間交流というものも、ヨーロッパの大学に比べて非常に難しいということも、ヨーロッパの学生は知らない。そういうことをきちんと理解してもらうための国際的な大学ポートレートであってほしいと思えます。

企業にとって何が知りたいかというのも、まだ多分討論されていないというお話でしたけれど、やはり全然情報が違うと思うんです。ある大学をターゲットにして選ぶのではなく、大学にどういう情報があるのかということ調べる1つの入り口として大学ポートレートがある。そういうことをしないと、やはり利用者は増えないし、大学ポートレートを大学ウェブサイトと重複させて持っている意味がないんじゃないかと思えます。

【鈴木議長】

ありがとうございます。

いかがでしょうか。山極委員のご発言という考えかもしれませんが、入り口としての機

能を、使い勝手といいますか、大学全体のためのそういうスペースといいますか、それが必要だということのご意見でございます。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

事務局に聞きたいのですが、現状の大学ポートレートの改良に向けた取り組みについて、どう捉えているのでしょうか。

【武市大学ポートレートセンター長】

資料7-1については、大学ポートレートセンターで、来年度に向けて進めようとしているとご理解いただければと思います。

ただ、事務局が進めるに当たっては本運営会議での決定というのが必要になってまいります。そういうことがかなり多くあるというのが、この大学ポートレートのシステムの状況であるということをご理解いただければと思います。

案をお出しいただきたいというふうなことももちろんございますけれども、それ以上に、本運営会議で合意を得たことについては、大学ポートレートセンターで原案をつくった上で、次に、こういう形で実現するというふうな方向づけをさせていただきたい、そうご理解いただければと思います。例えば、認証評価への活用のごことは、きょう、本運営会議に提示されまして、これを具体的に、それでは私どもと日本私立学校振興・共済事業団のほうで、どういうふうにその項目を追加するか、そういったことの検討を、具体的な案はこちらで用意した上で、再度こちらにお諮りさせていただくという、そういう項目だとご理解いただければと思います。中退率等々について、公表情報についても、これが今公開する準備を進めていかどうかというふうなことも、決定いただく必要がある、そういうこととでございます。

【奥野公立大学協会顧問（清原委員代理）】

アクセス数が前回の本運営会議と今回とで大きく変わっておりませんが、これは普通だと事務局はお考えなんですか。

【武市大学ポートレートセンター長】

決して普通だと考えておりません。資料5「教育改善のための情報の活用について」の

中のポンチ絵というのは1つの方向の矢印になっていますが、これはデータの流れを示すような形の図であるをご理解いただければと思います。双方向に大学、コミュニティのご意見を伺いながら改善していくと。それをこれまで以上に進めていくことは当然ではありますが、現時点で、先ほどのデータが普通だと思っているということは決してありません。先ほど申し上げたものは、2つ目にその他機能の充実とあるかと思いますが、この部分につきましては、大学ポートレートセンターで十分なデータの収集等の仕組みを入れる、あるいは、現在のものから変更することが、本運営会議の決定されたことに反するものでない限りのことについては、大学ポートレートセンターで進めていくということは当然のこととして考えております。

【相良副議長】

認証評価との関わりで、大学ポートレート運営会議で議論されてきましたが、私は日本高等教育評価機構の役員をしております、主に私立大学の認証評価に携わっております。平成16年から認証評価制度が始まって、全ての大学は7年ごとに1回認証評価、外部評価を受けるということで、今、第2サイクルの半ばぐらいに差しかかっております。第3サイクルが平成30年に始まるということで、中央教育審議会大学教育部会でも、認証評価のあり方をこれまで議論してこられて、おそらく近いうちに認証評価制度の改善につながるような細目省令も発表されると聞いております。

認証評価制度に関わるものとして大学側の評価疲れ、大学にとって非常に負担が大きいというようなことを頻繁に関係者から聞いております。先ほど、認証評価機関連絡協議会の岡本委員が出された要望書も、できるだけ認証評価のための大学の負担を軽減したいというものだと思います。大学ポートレート運営会議でも、大学ポートレートの実施のための大学の負担を軽減したいとされています。

日本高等教育評価機構も、第3サイクルに向けて、認証評価制度、例えば、基準のあり方等々を、これから改訂していかなければならないと思っておりますが、そのときに、やはり大学ポートレートのことを無視して進めるわけにはいきません。大学ポートレートと認証評価制度との関係性は、十分に考えながら議論を進めていきます。また、大学ポートレートでも、資料7-1「今後の大学ポートレートの改良に向けた取組について」に、認証評価への活用に向けた項目の充実ということをおっしゃっておりますが、これは活用というより、認証評価を受ける大学の負担軽減にどういうふうにつながっていくかとい

うことを考えていただきたいと思います。

【鈴木議長】

ありがとうございます。

資料7-1「今後の大学ポートレートの改善に向けた取組について」をご覧くださいますと、今後の大学ポートレートの改良に向けた取組についてということで、ステークホルダー・ボード等の意見を踏まえた整理とございます。先ほどステークホルダー・ボード、小林専門委員のからご意見はいろいろ出ているという説明がありましたけれども、大学ポートレートの魅力を高めるための改良について、公表画面の機能の充実に向けた改良について、特に比較機能の設定や比較する具体的情報をどうするかということ、それから、情報の充実に向けた改良について、例えば、中退率や定員充足率等の項目の追加についてというふうな、取り扱いがこれまで非常に慎重にしてきたという項目がございます。これらの項目について、どういう方向性で我々は検討していったらいいかということ、本運営会議で議論をしていただきたいと思いますということです。非常に難しい、慎重を要することではありますけれども、いかがでしょうか。

【水戸委員】

私立大学は600大学以上ありまして、大規模校から小規模の大学まであります。また、定員を満たさない大学は4割を超えています。定員充足率が50%以下のところもあることを考慮すると、全ての大学で、中退率や定員充足率も公表を義務化するというようなことになる、日本私立大学協会内でも異論が出てくると思われま。

【原田委員】

短期大学基準協会として、認証評価への活用に向けた項目の充実というところなんです、評価は自己点検評価報告書をもとに実施しますので、大学ポートレートをそのまま活用しようにもできません。岡本委員がおっしゃったように、過去5年のデータとか、そういったものは使えますが、小林専門委員がおっしゃった虚偽の記述について、誰がどのようにしてこの大学ポートレートの責任を取るのでしょうか。私学の場合には、免責事項として記載されておいて、その当該の学校が全責任を負いますよという項目があるので、大学ポートレートの中の情報がどこまで信頼できるのかということが問題になってくるんで

すね。そのあたりを解決していただければ、大学ポートレートをそのまま信じて、当該学校のウェブサイトに入らなくても、そこで確認ができますけれども、そういった責任の問題、それがやはり何とかならないといけないんじゃないでしょうか。

もう一つは、国際発信で、大きな問題が生じたときに、このウェブサイトは全て駄目になる可能性があるような気がするんですね。責任や信頼性がないということではいろんな問題が起きています。そういう問題が、留学生が選んで入学した途端に何か問題が出たということになると、どう責任をどこが取るのかと。そういったところまで考えておく必要があるような気がいたします。

【鈴木議長】

ありがとうございます。

先ほど虚偽情報の発信が、韓国で非常に問題視されているというお話がありました。原田委員からも、国際発信をしたときに、どういう責任の取り方を想定するかということなどもいただきました。これらについては、今後の議論の課題として考えていかなければいけないと思う次第であります。

【武市センター長】

虚偽の情報の取り扱いのことについては、これまでも議論がなされたことがあり、現在のところ、サイトポリシーとして、大学ポートレートのトップページに、著作権、あるいは、第三者の権利、免責事項ということで表現をしております。ですから、あくまでも情報の提供者は大学であって、我々が情報を加工したということはありません。もちろん、表示の様式を変えているというところはありますけれども、それ以上のものではないということは明言しております。これ以上に必要なことがあるとすれば、ご指摘のように、検討させていただきます。

また、国際的な事項についても、ご指摘のとおりだと思います。決してこれまで野放しにしているというわけではないことはご理解いただければと思います。

【鈴木議長】

認証評価機関連絡協議会から要望のありました 35 項目につきましては、大学評価・学位授与機構と日本私立学校振興・共済事業団とで項目の追加に向けて検討を進めていただき

たいと思います。

それから、ステークホルダー・ボード等からの意見につきましては、本日のご議論を踏まえまして、大学ポートレート運営に係る実務者協議会で調整を図りつつ、大学ポートレートセンターにて検討いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、その他の議題に入りたいと思いますが、独立行政法人大学評価・学位授与機構と独立行政法人国立大学財務・経営センターが統合に関しての事務連絡があるということです。事務局から説明をお願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

平成 28 年 4 月 1 日をもちまして、大学評価・学位授与機構が国立大学財務・経営センターと統合するということにつきましては、前回の本運営会議にもご報告をさせていただいているところでございます。

本日の事務連絡といたしましては、統合に伴いまして、組織名称が変更になることから、大学ポートレート関係の諸規定につきましても、改正の必要がございます。ただし、このことにつきましては、組織名称の変更のみということでございますので、事務的に一括して改正をさせていただきたく、本日、この場でご了承をいただければと考えております。

【鈴木議長】

ありがとうございました。

それでは、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

資料 8 「今後のスケジュール」をご覧ください。

大学ポートレートに係る平成 28 年度のスケジュールといたしましては、6 月頃に大学ポートレート運営会議（第 5 回）を開催を予定しております。本日、各委員からいただきましたご意見、または、認証評価機関連絡協議会からいただいたご要望も含めまして、今後、大学ポートレートで収集する追加項目等についてご審議いただきたいと思いますと考えております。

その後、夏ごろにステークホルダー・ボードを開催しまして、大学ポートレートの運営状況についてご報告を行い、引き続きご意見、または評価をしていただくということを考えております。

また、秋口に大学ポートレート運営会議（第6回）を開催し、ステークホルダー・ボードのご意見を踏まえ、運営の改善に向けたご審議をいただきたいと考えております。

その審議状況も含めまして、11月頃に、ステークホルダー・ボードを開催し、ご意見をいただきます。

そして、年明けの2月から3月ごろに、大学ポートレート運営会議（第7回）を開催するという事で予定しております。

以上でございます。

【鈴木議長】

本日の議事は以上でございます。

本日はこれをもって閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —